

会議名称	第3回山口市協働のまちづくり市民会議
開催日時	平成19年9月28日（金曜日） 午後6時30分～午後9時00分
開催場所	山口総合支所3階 第10・11会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	辻正二委員、坂本俊彦委員、渡辺洋子委員、清水春治委員、井出崎小百合委員、加藤結花委員、國吉正和委員、豊川智恵委員、中村保男委員、中山美穂子委員、西村美紀委員、西村律子委員、原田章子委員、原田雅代委員、平井多美子委員、福田嘉夫委員、益田徳子委員、山根伊都子委員、山本貴広委員、山本豊委員、若崎啓一委員（21人）
欠席者	久保田美代委員、藏本信江委員、曾田元子委員（3人）
事務局	安光協働推進課長、山田主幹、杉田主任主事（3人）
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 1 前回会議の確認について 2 市民委員「市民会議への思い」発表 3 グループ討議 テーマ「まちづくりを進める上での課題」 4 全体発表、まとめ 5 次回開催について 6 その他
内容	<p><事務局> 最初のあいさつ 本日の配布資料の確認</p> <p>【1 前回会議の確認について】</p> <p><会長> 本日で市民会議は3回目になります。2日間の自主勉強会も大変おつかれさまでした。みなさんのお手元に「かわら版」が配られています。その裏面に自主勉強会参加者の感想や気付きが書かれています。これから条例をつくっていくにあたってのみなさんの率直な気付きが書かれています。 今日は時間延長も考えられるので了解願います。</p> <p>【2 市民委員「市民会議への思い」発表】</p> <p><原田雅代 委員> 私自身まちづくりの条例に関心が高かったのですが、どんな条例を作ればよいのかと思って、2回目の自主勉強会のあとに事務局に『ドキュメント・市民がつくったまちの憲法』を借りに行きました。それがきっかけで、このたび自己紹介を最初に引き受けることになりました。ところで、私は15、6年前に「山口シティカレッジ」を受講したことがあります</p>

まして、受講後は今日まで、生涯学習ボランティアや、市民活動分野では男女協働参画の活動に携わってきました。「協働」と一言と言っても、なかなか大変で、市民はとにかく行政からの下請けになりがちです。しかし、今回の市民会議に参加してみて、このような進め方なら協働で条例づくりをやれると思えました。またこの市民会議に若い人がたくさん参加しているのも大変すばらしいと思えました。若い人をいかに巻き込んでいくかが、これからの大きなテーマだと思います。私の条例に対する思いとしては、まちづくりを進める上で、「男女共同参画社会」の実現が必要であり、これにより少子高齢化社会を乗り切っていかなければいけないと思えます。委員の公募に申し込む前に、他市の条例の中に男女共同参画社会のことについてどう規定されているのか、色々と調べてみましたが、結構事例を見つけることができました。そこで私なりに山口市の条例づくりに努力してみようと思ってこのたび応募しました。現在地域コミュニティが壊れつつあるのが大変心配になっています。行政と協働でまちづくりを進めていく上でコミュニティ、自治会活動、市民活動がとても大切だと思います。

今回、『ドキュメント・市民がつくったまちの憲法』を読んでみての感想ですが、条例づくりは大変だと思えました。この本の中では、大和市の市長が、「つくる会」の委員に対して、他市の条例を参考にするのではなく、白紙の状態からつくるのがみなさんの仕事というように話しています。それから条例策定までのプロセスがすばらしく、条例のたたき台をつくっては、自治会や市民を巻き込んで討論を重ねています。そして子どもの権利条項を入れようということで、高校でも意見交換を行っています。結果的には市民を巻き込んだでの討論を60回以上も行っていきます。また住民投票の請求権を満16歳からにしている点も特色があります。

山口市の条例についても、「山口らしさ」をどこまで出せるのかということが一番大切だと思うのですが、私自身まだ見つからずにあります。誰でもが理解できるように、具体的なものをつくっていきたいと思えます。

<原田章子 委員>

私が市民会議に参加したきっかけについてお話します。私は5、6年前になりますが、山口情報芸術センターができる前に市民委員会の募集があり、そのメンバーになったのがボランティア活動の始まりです。集まったメンバーで、イベントの企画をすることになったのですが、何もわからない状態で何の具体的な指示もなく、内容からなにまですべてボランティアに任されるような形になりました。私はそのような行政の対応があったので、行政不信になってしまいました。そこで、自分たちで一から勉強し、何か考えてやってみようという感じでとにかく進めていき、とても大変な思いをしました。さらに私たちボランティアは、情報芸術センターでの位置づけがまだはっきりしていなかったこともあり、行政職員の方からきちんと受け入れてもらえなかったと思っています。2年目は専門スタッフと一緒に、私の企画したものを1年間通じて実施したのですが、予算も事務的なことも、大変すんなり事が運びました。やはり市民だけでやるというのは難しいのかなと思いました。行政と専門スタッフとの間の市民委員会という中間的な立場で板ばさみになり、

「協働」とは何だろうということを考えさせられた2年間でした。その後、NPOの講座などを受講して活動してきましたが、市民活動を広げるためには、根本的に何かを変える必要があると感じました。そこにまちづくりの条例を策定する話がきたので、自分も一緒になってつくっていかれば良いなと思って参加してみました。先日行った自主勉強会の中で、他市の条例が紹介されたのですが、その内容が難しく理解できませんでした。でもこれではいけないと思って、ホームページを検索して調べてみると色々と勉強になりました。また「総合計画まちづくり構想の組み立て」の説明を聞いて、はじめて条例づくりの位置づけを理解することができました。色々とある課題を解決するためのプロセス、課題解決の方法を考え、これを条例という形につくっていくのが私たちの役割ということがわかりました。みなさん、これから一緒にがんばりましょう。

【3 グループ討議】

<会長>

今後もこのような形で2人ずつ発表する時間をもちたい。次回は小郡出身の二人にお願いしたい。一人3分でお願いします。

それでは、今日はグループワークの形で進めていく。その進め方については渡辺副会長に説明をお願いします。

<渡辺副会長>

グループワークの説明に入る前に、今までの作業がどのようにつながってきているかを、今日お配りした「かわら版」で確認する。ここ数回でみなさんに、まちづくりについて色々と課題を出していただいているが、住民としての自分自身の課題とか、地域活動、市民活動をしてみて気付いた課題とか、学生さんからみたまちづくりの課題とかを出していただきたい。行政に対して不信に思っている点や不満などもどんどん出していただいても大丈夫。そしてその原因について、自分達が行政のコンサルになった気持ちでしっかりと掘り下げ、次回はこれらのまちづくりにおける課題、住民自治を実現するための課題を解決するためのアイデアを出してもらおう。さらに課題解決するための、地域住民、行政の役割を考えながら、まちづくり基本条例ではどのような協働が必要かをシュミレーションしていく。そして、自分達が動けるための条例という意識をもって考えていただきたい。また、条例の項目立てなどについては間で勉強会なども入れて学習する機会をもちたいと考えている。

今日のグループワークについては、ゆるやかな関係づくりということもあって、なるべく話しをしたことのない人との組み合わせをするために、事前に事務局で前回とは異なるグループ分けをした。進行役としては正副会長がそれぞれのグループにつく。発表者と書記をまず選ぶ。これから最初に自己紹介として「市民会議に参加したきっかけ」を各人2分で話す。それから、宿題で考えてきていただいた「まちづくりを進めるうえでの課題」

を、ひとつずつ付箋に書く。そして記入ができれば、発表する。一人ずつ付箋の内容を読みながら模造紙に貼り付ける。そしてこれらの付箋をグループ分けした上で、ぼちぼちシールを使い、重要度の高い課題にはシールを貼り、重要度の高いものを決める。そして最も重要度の高いものから、グループ討議により、その課題についてできるだけ深く原因を掘り下げていって、最後に全体で発表してもらう。

《グループ討議》

【4 全体発表 まとめ】

<Aグループ>

まちづくりを進める上での課題として、まず市政全般について検討した。その結果、人口問題、財政問題、意識問題の3つに集約された。人口の増減が市政に与える影響はすごく大きいので、若者の定住促進をしなければならない。空き家の増加、限界集落の問題などもある。財政面については、税金アップの方策を考える、意識面では市民が市政に関心をもってもらう、行政の意識改革の必要性があげられた。意識改革という点に話が集中した。情報公開という面では、情報をもっと出していき、ホームページをもっと活用し、有線放送の復活なども話が出た。

地域活動、市民活動の促進という点では、地域づくり、コミュニティ体制の確立、意識改革がここでも話された。

参画・協働の推進という点でも意識改革の必要性が話された。

効率的な行政運営という点でも意識改革をしたうえで、外部、民間委託の積極的な推進を進めていく必要性が話された。職員の削減については、サービスの低下を招きかねないので、消極的な意見も出された。

<Bグループ>

私たちのグループでもたくさんの課題が出され、まだ十分にまとまりきれていないが、人材育成と役割分担という点に話が集中した。人材育成と役割分担はつながってくる問題なので、役割分担という点にしぼってグループ討議をしたが、行政も市民の側も意識改革の必要性を感じているという思いを共有した。ではこの住民と職員の意識改革はどのように進めていくべきかという点で話を深めていたが、例えば道普請などをやることに関しては、昔から決まっているからやるという意識でやっているのですが、何のために、誰のために、やることによってどのような効果があるのか、ということなどをはっきりしていく必要があるのではないかと感じた。だけど、今の若い人はそういう活動になかなか出てこない現状がある。自立という言葉が「ひとに迷惑をかけなければそれでいい」という考えで使われている風潮があるので、そのような人たちをどう巻き込んでいくかということを考えて。そこで、子ども達を巻き込み、地域のおじいちゃん、おばあちゃんとして、

子どもから意識を変えていけばいいのではないかというアイデアもでた。

行政の意識改革としては、まず行政のトップに意識を変えてもらうのがまず一番だ。そして職員については、行政の職員としてではなく、同じ市民としてどう生きるのかを考えてもらって、おおいに地域やNPO、市民活動に参加してもらいたいということが出た。そして、そのような実績を認められ、こういう人がトップにあがれるような行政の仕組みになればいいという話になった。

<Cグループ>

私たちのグループで一番注目した課題としては、市民と行政職員の意識改革が課題となっている点に注目した。行政職員は市民が行っている活動に対する市民の意識を知らないし、市民は行政が行っている事について知らないし、互いに知ろうということができていないということが問題なのではないか、ということになった。行政のことについて、たくさん情報が公開されており、知る機会はあるけれども、市民が知ろうという意識がない。財政問題がすごく大変でも危機感が市民に伝わらないので、市民が動く活動に結びつかないという話が出た。

まちづくりの情報の公開でも、市民や行政の感じ方に応じた情報の公開の仕方が必要になると思う。

行政と市民の意識改革が、まちづくりを進めていく上で一番大切な基礎になると思う。

<会 長>

意識改革ということが3つのグループから共通して出された。Aグループは行政側から出された課題に影響を受けすぎてしまって、ほとんど網羅されたように感じる。

Bグループは自分達で課題を見つけていくという姿勢でまとめられており、人づくり、役割分担にしばって、大変わかりやすく話しをまとめていた。

CグループはAとBの中間的なまとめ方になっており、財政問題から市民行政までまんべんなく話しあわれた上で、やはり意識のことに触れられていた。

<渡辺副会長>

今回、解決しなければならない課題というのがかなりはっきり共有できてきたのではないと思う。これらの課題を解決するために「アイデアカード」を使って深めていきたい。自分の感性の中で、思いつくことをいろいろと考え、次回までに書いてきていただきたい。

<A委員>

まだ我々のグループでは今日出てきた課題を十分深めることまでできていないのだが。

<渡辺副会長>

これらの課題をすべて一つ一つ深めていくということはない。今日の作業では課題の構造を掘り下げることにより、頭をやわらかくしてもらったので、次回からは個別の作業

になる。今回出てきた課題を整理し、出てきたものをキーワードごとにまとめる作業を事務局にお願いし、みなさんにお送りしたいと考えている。

<会 長>

かわら版の担当者から何かないでしょうか。

<平井委員ほか3人>

私たち4人は広報委員を立候補してやっている。4世代チームということでやっている。私が編集長、若崎委員は広報担当が間違った方向にいかないためのお目付け役として、あとの若い2人は編集作業を担当する。次号から2人ずつ自己紹介を載せていきたいと思うので委員のみなさんの協力をお願いする。

そして、みなさんはメッセンジャーとしてこの「かわら版」をおおいに活用して、周りの知人に配っていただきたい。

【5 次回の開催について】

<会 長>

次回の市民会議の予定確認

その他に、バスツアーの企画を説明してください。

<B委員>

自主勉強会のときに、市内めぐりをしたいということを提案をしたので、私なりに企画書を作成した上で、副会長に相談したが、一人走りをするのではなく、グループの中から仲間を募ってやるようにアドバイスをされたので、みなさんにお話をしたい。

今の市民会議のスケジュールでは予定が詰まっているので、全体でツアーをする時間は難しい状況のようだ。来年の3・4月くらいに予定してはどうかという話もあったので私のこの企画に賛同してもらえる方がいたら声をかけてほしい。そしてその方と一緒に計画を練って、各地域の見所をさがし、委員に満足してもらえる内容のものにしていきたい。自分で足を運んで自分の目で見るということも大切と思うので賛同をお願いしたい。

<会 長>

その他にかありませんか。

<A委員>

条例は議会を通過しなければなんにもならないということで、私は議員の方数人に今の取り組みについて知っているかを尋ねてみたが、知らないという返事だった。広報にも載ってはいるが、もっと議員に前もってアピールしておく必要があるのではないか。

	<p><会 長> このかわら版の配布でまた広まっていくのではないかと思いますので、委員のみなさんの協力をお願いしたい。 最後に、事務局から何かないでしょうか。</p> <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート記入のお願いの件 ・ アイデアカード作成の件（宿題） <p style="text-align: right;">以 上</p> <p>会議の経過を記載し、その内容に相違のないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">署名委員 井 出 崎 小 百 合</p> <p style="text-align: center;">署名委員 加 藤 結 花</p>
<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 レジユメ 2 協働のまちづくり市民会議 第3回（資料1） 3 第3回市民会議グループ編成表（資料2） 4 かわら版
<p>問い合わせ先</p>	<p>自治振興部協働推進課協働推進担当 TEL 083-934-2965</p>